

## 第1回委員会の委員意見と対応方針

## I 福岡市基本計画、その他関連計画との整合

整理番号	委員意見	対応方針	第2回 で対応	第3回以降 で対応
1-1	福岡市基本計画の情報を緑の基本計画にどのように反映させるのか。	<p>福岡市の総合計画である「福岡市基本計画」と「福岡市緑の基本計画」との整合については、関係部署と適宜進捗状況や情報等を共有するなど相互に連携を図りながら、取り組んでいるところ。</p> <p>また、“福岡市基本計画”の改定状況については、本委員会に適宜情報提供を行っていきたいと考えており、その情報を踏まえてご協議いただきたい。なお、今回、新たな“福岡市基本計画”の策定に向けて実施した市民意見募集の結果について「資料3」で示しているため、ご参照いただきたい。</p>	●	●
1-2	総合計画と個別計画の整合性を取るためにエネルギーを使い、総合計画を軸にしながら緑に関する個別計画を作ること。	「1-1」のとおり	●	●
1-3	計画体系をこれからどうするのか。総合計画を改定し、環境基本計画も改定を控える中、計画相互の関係性をどうするか、早い段階で整理して議論する方がよいと思っている。	<p>いただいたご意見のとおり、福岡市の総合計画である「福岡市基本計画」については、「福岡市緑の基本計画」をはじめとした分野別計画と、齟齬なく整合するよう、相互に検討内容を共有しながら策定を進めており、またそうすることで、個々の分野別計画の間においても、整合が図られている。</p> <p>「福岡市基本計画」に基づき、施策・事業を進めていくが、緑にかかる分野については、その重要性がますます増している中で、市民・企業等と共に取り組む必要があることなどから、特に関連性の高い範囲に特化し、目標などをわかりやすくまとめた、「緑の基本計画」を策定することが効果的と考えている。</p>	●	
		<p>緑に関する総合計画として策定する方針をとるが、いただいたご意見のとおり、関連する個別計画とは整合を図る必要があるため、所管する部署と協力体制をとりながら、適宜協議を行い、整合のとれた計画としていく。</p>	●	●

1-4	<p>生物多様性国家戦略が改定されたので、個別計画では地域戦略を今後どうするかという議論もあろうかと思う。ネイチャーポジティブや Well-being まで含めたかなり幅広い施策をすることが示されている。</p>	<p>「1-3」のとおり          いただいたご意見のとおり、ネイチャーポジティブや Well-being については、緑の分野に留まらず幅広い概念であるため、「理念」や「基本方向」など計画の根幹的な部分の中で詳細に議論していただきたい。</p>	●	●
1-5	<p>都市の緑との関係で再エネとうまく整合できるのかということも、計画間相互で担保をすることが必要。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、福岡市地球温暖化対策実行計画（R4.8 策定）においては、再生可能エネルギー等の導入推進について「周辺環境に配慮しながら」取り組むものとされており、あわせて「炭素吸収施策」として「森林等の保全・再生」や「みどりあふれるまち並みの形成」にも取り組むこととされていることから、これらを踏まえて計画間の整合性をとりながら緑の基本計画を策定したいと考えている。</p>	●	
1-6	<p>森林の労働者不足を背景とした将来像などは、福岡市の緑の都市像や緑地の保全活用という観点から総合的に見直す必要がある。農地や林地についてのそれぞれの計画がオーバーラップしているので、コミュニケーションを取りながら整合性ある計画を進めていくことがポイント。生物多様性戦略等の計画と連動しながら質の議論を展開するのもいい。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、森林（労働者不足）や環境（地球温暖化や生物多様性）の分野においては住宅都市局だけでは解決できない課題もあるため、関連する個別計画（福岡市農林業総合計画、生物多様性ふくおか戦略等）を所管する部署と協力体制をとりながら、適宜協議を行い、整合のとれた計画としていくとともに、計画の実現のために関連局を含めた推進体制で施策を実施していく。</p>	●	●
1-7	<p>緑だけでは解決できない環境分野は、他の計画と連携しながら改善しないといけない。</p>	<p>「1-6」のとおり</p>	●	●
1-8	<p>計画の実現には、公園緑地担当部局だけでなく、他部局を含めた(=全庁をあげた)取組みが不可欠で、その体制づくりとフォローが重要。</p>	<p>「1-6」のとおり</p>	●	●

## 2 人口推移や九州全体・アジアの視点

整理番号	委員意見	対応方針	第2回 で対応	第3回以降 で対応
2-1	<p>福岡市は全国の中でも人口が増え続けているので、これまでの計画とこれから10年の計画で緑の量と質についてどのように解釈するか、独特な戦略が必要。昼間人口、夜間人口、アジアからの観光客で緑の役割は異なるだろう。人口が増える中で、福岡市民にとっての緑と観光客にとっての緑を分けずにまとめて検討するのは難しいのではないかと。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、対象毎に、求められる緑の役割は様々であることから、今後の人口構成やアジアからの観光客等の視点も踏まえて緑の質をどう高めていくかは重要と考えており、“観光”や“賑わい”など様々な観点から検討していきたい。</p> <p>いずれも、第3回以降の委員会で市の考えをお示しし、ご意見をいただきたい。</p> <p>なお、令和5年12月議会において公表した、福岡市における将来人口推計を「説明資料」に記載しているため、ご参照いただきたい。</p>		●
2-2	<p>人口構成に合わせて緑の質をどう高めるかという視点が重要。</p>	<p>「2-1」のとおり</p>		●
2-3	<p>福岡市は九州の中での玄関という位置づけがあるので、国交省の国土形成計画との整合性が必要。熊本市など九州内の都市連携も必要。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、国土形成計画の内容も踏まえ、整合のとれた計画とするよう検討したいため、第3回以降の委員会で詳細に議論していただきたい。</p>		●
2-4	<p>アジアからの来訪者が緑をどう見るのかという視点も重要。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、福岡市は「人と環境と都市活力の調和がとれたアジアのリーダー都市」を目指しているため、アジアからの来訪者の視点として“観光”や“賑わい”の観点を踏まえて、基本方向3「拠点」をブラッシュアップしていく中で検討したいと考えており、第3回以降の委員会で詳細に議論していただきたい。</p>		●
2-5	<p>友泉亭・野河内溪谷・背振山の方がキャナルシティやベイサイドよりも人気があるというデータが出ているが、アクセスが難しく、熊本・大分に行ってしまう。身近な緑へのアクセス強化やクオリティを高める視点が他自治体と比べても足りていない。</p>	<p>「2-4」のとおり</p>		●

### 3 データ分析の結果を踏まえた改定

整理番号	委員意見	対応方針	第2回 で対応	第3回以降 で対応
3-1	データを元に専門家で議論すると思っていたが、この検討スケジュールを見るとその議論はどこですのか。	いただいたご意見のとおり、 <b>データやエビデンスをもとに検討、議論いただけるよう、今回、「資料2」「資料3」をお示ししている。これらのデータに基づき、福岡市の緑が抱える課題について議論をお願いしたい。今後とも、必要なデータについては、適宜お示ししていく。</b>	●	
3-2	森林の緑被率は数値としては減っていないが、質としてどうなのか。それぞれの緑は機能や効果の大小も異なるので、数字の増減の中身をしっかり検証することが大事。現状を調査、分析してエビデンスを持ったのちに、基本方針・基本方向を定めるプロセスが大事。	「3-1」のとおり	●	
3-3	福岡市の課題としてどのような視点でデータ化が必要なのか、またそれに基づく分析と目標・KPIの設定が必要。	いただいたご意見のとおり、データ分析の結果に基づく目標設定が重要であるため、今回の議論内容も踏まえて目標や成果指標を第3回以降の検討委員会でお示しするので、詳細にご協議をいただきたい。		●
3-4	森林計画や他の計画で出ているデータとすり合わせながら見ていくことも必要。	「3-1」のとおり	●	
3-5	年代別などで表すと、若者はどうか、高齢者はどうかという議論が深まる。	「3-1」のとおり	●	
3-6	誰を対象に分析を行っていくかという視点が必要。	「3-1」のとおり	●	
3-7	アンケート結果はどの会議でも悪い結果が出てこない。	今回、「資料3」の中で緑に対する市民意識の経年変化をお示ししている中では、悪い結果も出てきているところ。それも踏まえて、市が取り組むべき課題についてご議論いただきたい。	●	
3-8	次のアンケートでは、NOの内訳が分かるようにやり直してはどうか。何に対する不満なのかを突き詰める設計やデザインが足りていない。	いただいたご意見のとおり、何に対する不満なのかを突き詰める必要があるため、次回以降、アンケートを採る際に、NOの内訳分析につながるような質問を取り入れていく。		●

#### 4 緑の質・意味の見直し

整理番号	委員意見	対応方針	第2回 で対応	第3回以降 で対応
4-1	<p>緑の意味自体も拡張しているので、今回の計画には国が推進するグリーンインフラの考えが大きく入ってくるのではないかと。グリーンインフラには、都市の浸水対策、遮熱対策、生物多様性の確保、ゼロカーボン、健康増進、にぎわい創出の全てを含む。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、<b>グリーンインフラの意義※を踏まえ緑の役割を見直すことについて検討したいと考えており、第3回以降の検討委員会で、6つそれぞれの基本方向をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。</b></p> <p>(※①ネイチャーポジティブ・カーボンニュートラル等への貢献、②社会資本整備やまちづくりの質向上、機能強化、③SDGs、地方創生への貢献(国土交通省「グリーンインフラ推進戦略 2023」))</p>		●
4-2	<p>背振の山頂にはブナ林があるが、間の植生はスギ・ヒノキで植生の連続性が欠けており、質という点ではどうなのか。生物多様性、観光などの面からも、緑の質を評価する必要がある。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、生物多様性などの面からも、緑の質を評価する必要があるため、特に森林の緑の質については、第3回以降の検討委員会で、基本方向1「骨格」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。</p>		●
4-3	<p>街路の植込み空間が外来種のネットワークになったり、管理不足で、植栽低木が枯れ込んでいく実態がある中で、緑化のあり方やデザインのあり方自体を問う必要がある。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、緑化デザインのあり方について検討する必要があるため、第3回以降の検討委員会で、特に街路の植え込み空間については、基本方向4「身近」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。</p>		●

## 5 健康・安全・子どもなどの個別テーマの扱い

整理番号	委員意見	対応方針	第2回 で対応	第3回以降 で対応
5-1	以前と比べると、グリーンインフラ戦略 2023 でも健康というキーワードが強く打ち出された。Well-being をキーワードに盛り込んでいく流れの中でももう少し前面に打ち出した方がいい。レクリエーションの切り口に健康というキーワードを入れて議論できるといい。健康に緑は効果があるということを連動させる必要があるので、その中身を保健福祉総合計画などの関連計画に入れてほしい。ベンチプロジェクトでは、ベンチを作るだけではなく緑を組み合わせることで良い空間になると思うので、連携するとよいのではないかと。	<p>いただいたご意見のとおり、市でも公園において FitnessCity プロジェクトなどを推進しており、レクリエーションの切り口に“健康”というキーワードを入れるよう検討したいと考えているため、第3回以降の検討委員会で、基本方向4「身近」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。</p> <p>また、保健福祉総合計画やベンチプロジェクトを所管する部署と適宜協議を行い、連携を図っていく。</p>		●
5-2	公園における防災・避難についてももう少し詳しく書いていただきたい。	<p>いただいたご意見のとおり、公園における防災機能については市民への周知が不足しているという課題があると考えているため、第3回以降の検討委員会で、基本方向5「安全・安心」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。</p>		●
5-3	持ってきた高木が高く大きくなり草木が繁茂しすぎると、子どもたちが怖くて遊べなくなり（照明灯が見えなくなるなどもあり）、保護者も遊びに行かせられなくなる。現状は、親にとっても公園が安心して遊べる場ではない。緑化は大事だが、子どもたちも大事なのでそこもよく考えて計画を立てていただきたい。	<p>いただいたご意見のとおり、子どもが安心して遊べる環境は大切な視点であるため、第3回以降の検討委員会で、基本方向4「身近」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。</p>		●
5-4	地域における個別事業はとても大切なので、総合計画としてその考えを整理していく。	<p>いただいたご意見のとおり、個別テーマについて計画に反映させるために、関連する各基本方向をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。</p>		●
5-5	個別の話をして全体に落とし込むと安直になる場合もあるので、データ分析し総合的に考える必要がある。	「5-4」のとおり		●
5-6	緑の役割の「レクリエーションの場の提供」について、健康や賑わい、子育て等の観点の明確化は、今後の官民連携を進めるうえで方向性を明らかにするという視点でも重要。	「5-1」のとおり		●

## 6 民有地へのアプローチ

整理番号	委員意見	対応方針	第2回 で対応	第3回以降 で対応
6-1	住宅地でのマンションの更新や新築にどうアプローチしているか。	いただいたご意見のとおり、 <b>民有地へのアプローチについては市としても課題であり、緑豊かなまちづくりについては、様々な主体が“みんなで取り組む”ものであるとの意識を広く根付かせていくことが重要と考える。どのようにアプローチ・コミットしていくかについて、第3回以降の検討委員会で、市の考えをお示しし、ご意見をいただきたい。</b>		●
6-2	住宅地の緑に対して何かコミットできるところはないのか。緑の基本計画でも「1本の木を植えましょう」などという表現でコミットしていかなければならないのではないのか。	「6-1」のとおり。		●
6-3	企業活動や建替え等において、緑の質・量は実際どうなのかは気になるところがある。都市の民間開発におけるあるべき緑化の方法をどう考えるかはもっと強く言うべき。緑の量だけではなく質まで議論の遡上に挙げてKPIの目標を示し、土地所有者や業界の協力を市が自ら求めるなど、他にも色々考えられる。	「6-1」のとおり。		●
6-4	民有地を都市の自然・緑として加えてどうネットワーク化するかということも議論されているので、OECMなどの視点も入れていただきたい。	いただいたご意見のとおり、OECMの考えも踏まえて民有地の緑も緑のネットワークに組み込んでいく必要があるため、第3回以降の検討委員会で、基本方向2「おすぶ」、3「拠点」及び4「身近」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。		●



## 7 これからの担い手・マネジメント

整理番号	委員意見	対応方針	第2回 で対応	第3回以降 で対応
7-1	<p>「これだけの市民が緑づくりに関わっている」ということを自慢としていえるような打ち出し方ができれば、関わる人がもっと増える。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、緑のまちづくり活動に参画する人を増やすことはもちろん重要であるが、現在の活動団体の取組みをいかにアピールし、誇りを持っていただくかといった視点も重要であり、今後は積極的に取り組むべきものとする。</p> <p>緑に関しては様々な活動があることから、子どもから大人まで多様な市民が、できることから取り組めるような枠組みづくりや、企業（特に中小企業）の参画などの窓口やアプローチの方法を増やすことが重要と考える。</p> <p>これらの視点も踏まえて計画への位置づけや、取組みの方向性、成果指標を定めたいと考えており、第3回以降の委員会で議論していきたい。</p>		●
7-2	<p>ただ継続されるだけではなく、「どう見せていくか」や「関わりをどのようにして作っていくか」など、今やっていることの編集ができるといい。日本も地域ブランディング・企業ブランディングに取り組む、誇りあるまちになっていく時期でないか。</p>	<p>「7-1」のとおり。</p>		●
7-3	<p>みんなが楽しんで楽にできる活動が増えるといい。公園愛護会の結成率を増やすことを目的にせず、緑に関わる人を増やすためにいろいろな関わり方を検討するといい。子どもたちも楽しく参加できる仕組み作りをやっていけるとよい。少しだけ関われるという人も参加できるような色々な幅がある枠組みを作れるといい。</p>	<p>いただいたご意見のとおり、子どもや少しだけ関わりたい人などにも参加できる窓口を増やすことが重要であるため、第3回以降の検討委員会で、基本方向6「協働」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。</p>		●

7-4	公園スケールや都市スケールでのマネジメントについて、誰がどのような金回りで実施するのか具体化できなければ、「楽しい公園愛護会」のような地域の場づくりは難しい。包摂型の地域づくりのような考え方も出てくるのではないか。	いただいたご意見のとおり、今後の都市マネジメントにおいては資金の確保が重要であるため、第3回以降の検討委員会で、官民連携の方針とあわせ、基本方向6「協働」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。		●
7-5	プレイヤーの存在が大事。コミュニティデザイン、愛護会活動、子ども会活動など、人と地域を動かしながら活動をしていることが緑の基本計画の指標として現れてほしい。	いただいたご意見のとおり、緑のまちづくり活動を行うプレイヤーが計画の核となることが重要であるため、第3回以降の検討委員会で、基本理念及び基本方向6「協働」をブラッシュアップしていく中で議論していただきたい。		●
7-6	一人一花運動は窓口が増えていい活動だが、ソフトウェアの部分はまだ足りていない。ソフトウェアが進むとハードウェアについても考えてもらえて、多様な主体の参加を促す。	「7-3」のとおり。		●
7-7	一人一花運動は、民有地の緑化が課題になる中、公園以外の緑づくりという切り口でそこに道を開いたものであり、今後強化する必要がある。	「7-3」のとおり。		●
7-8	企業にとって「緑」は身近な課題として捉えられていない。中小企業が参画する場合の方針を出すなど、企業がいかに参画して一緒に緑のまちづくりに取り組むかが示されれば働きかけやすい。	「7-3」のとおり。		●

## 8 策定プロセスの重要性

整理番号	委員意見	対応方針	第2回 で対応	第3回以降 で対応
8-1	緑が足りているかどうかなどについては、考え方をアニュアルレポートのようなもので市民に伝えているのかということの方が大きい課題だと感じる。隣に公園があっても緑が少ないと感じている人もいるかもしれない。	いただいたご意見のとおり、 <b>福岡市が目指す緑の将来像の実現に向けて、計画策定後の進捗管理は必要であるが、その点検評価方法や市民への報告については、第3回以降の委員会で市の考えをお示しし、ご意見をいただきたい。</b>		●
8-2	点検評価の方法を盛り込んだ方がいい。毎年のレポートとして、計画の内容と進捗状況を報告できるといい。	「8-1」のとおり。		●
8-3	どういうところに親しみを感じていないのか。「公園に親しみ」とあるが「緑に親しみ」だと結果は変わってくると思う。物事を考えるとき、親しみを持つことが第一歩であり、そのようなマインドも大事。	「8-1」のとおり。		●
8-4	今の時代、計画は「市民と一緒に作っていく」ものなので、情報が改善するように作ってみてはいかがか。インセンティブを設計することで参加する人がさらに増えるという循環がデザインできれば、日本で一番いい計画になると感じる。	「8-1」のとおり。		●
8-5	現状の緑の基本計画では、方針の部分は分厚いが、計画の推進方策は後ろに薄く載るだけなので、次の計画ではこの推進方策を分厚くしたい。福岡市独自の指標を設定し、それをみんなで達成していくようなところにオリジナリティーをつくと、全国から参考にされる福岡市の緑の基本計画になる。	「8-1」のとおり。		●
8-6	市として条例等を使いながらどのようにやっていくかを考えることが重要。	いただいたご意見のとおり、事業を推進するうえでは、条例の制定や相乗効果を生む事業間連携などの効果的な手法が重要であるため、基本的な考えを整理し、計画の盛り込めるよう協議いただきたい。		●

8-7	<p>トレードオフが生じることは様々な場面で起こり、これをいかに解消するかが重要。さらに、トレードオフの解消だけではなく相乗効果を狙って2つの施策を同時にやることも重要。</p>	<p>「8-6」のとおり。</p>		●
8-8	<p>基本方向の6項目はすでに決まっているものなのか。これだと協働と安全・安心はくっついて議論しないといけない。</p>	<p>網羅すべき基本方向の要素は、第1回検討委員会で示している6項目と考えているが、今回お示しした課題を踏まえ基本方向の要素について過不足がないか等議論していただきたい。</p> <p>また、第3回以降の検討委員会で新たに基本方向を整理してお示しするため、議論していただきたい。</p>		●